

事業評価調書（新規）

課名	農政環境部 農林水産局 農村環境室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	室長 坊垣 昌明 (課長補佐兼 田園空間係長) 横田 欣仁	内線	3931 (4022)
----	-------------------------	-------------------------	-------------------------------------	----	--------------------

事業種目	中山間総合整備	事業名	事業区間	総事業費	5.3 億円
		中山間地域総合整備事業	丹波西	内用地補償費	0.16 億円
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度
丹波市（旧青垣町全域、山南町全域、柏原町及び氷上町の一部）				H23	H23
事業目的			事業内容		
<p><現状> 丹波市の西部に位置する加古川流域を中心とした区域においては、林野率が86%と高く、地形勾配が急峻であるなど営農条件が不利であり、また老朽化した農業水利施設の維持管理に多大な労力を要している。 しかし本地域では、近年黒大豆、大納言小豆等の丹波の特産物の生産が盛んに行われるとともに、減農薬、減化学肥料の特別栽培米「夢たんば」等の環境創造型農業についても、積極的な取り組みが行われている。</p> <p><目的> 今後、丹波の特産物の生産拡大に向けて営農条件を改善するとともに環境創造型農業の推進を図るため、区画整理や農業用排水路等の整備を行う。</p>			<p>○農業生産基盤整備 受益面積142ha</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理 A=7.0ha ・農業用排水路 L=3.9km 5路線、ポンプ等4箇所 ・客土 A=2.6ha [国55% 県13.5% 市10.5% 地元21%] <p>○環境施設（生産基盤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落内排水路 L=0.3km 1路線 [国55% 県7% 市13% 地元25%] <p>事業主体：丹波市</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性	<p>地域の特産物の生産拡大や、大型機械を導入し安定的・効率的な営農を行い農地保全していくため、区画整理、客土、農業用排水路等農業生産基盤整備が必要である。</p> <p>①狭小で不整形な未整備農地において、高い生産性や省力化等により小豆等丹波の特産物の生産拡大を図るため、区画整理を行う必要がある。</p> <p>②揚水機を含む農業用水路の老朽化により故障や漏水が発生しており、増大している維持管理労力・コストの低減を図るため、農業用排水路等の改修が必要とされている。</p> <p>③安全安心な生活環境基盤を確保するため、狭小で老朽化した集落内排水路の改修が必要である。</p>				
(2) 有効性・効率性	<p>①農林水産省の基本指針に基づき算出した総費用総便益比はB/C=1.08（総便益額B=1,368百万円、総費用C=1,267百万円）であり、事業としての効果が期待できる。</p>				
(3) 環境適合性	<p>①ほ場整備地区内の水路整備にあたり、在来種の生態系を保全するため、石積み水路や魚巢ブロック等で整備を行う。</p>				
(4) 優先性	<p>①本地域では、旧山南町を中心に特別栽培米「夢たんば」の生産が行われるなど有機農業が広がりつつあり、今後県民に安全で信頼できる農産物を提供できるよう環境創造型農業の推進を図る必要がある。</p> <p>②効率的な営農を行い、黒大豆や大納言小豆などの丹波の特産物の生産を拡大し、ひかみ四季菜館やかどの郷等の農産物直売施設での販売を促進することで、地域の活性化を図る必要がある。</p>				

(注) 別に定める指標評価表、図面等を添付すること。

おびえ
ほ場整備（丹波市青垣町大榎）
狭小な現況区画



整備後の区画計画

中山間地域総合整備事業 丹波西地区 全体計画図



『青大豆とうふ』



直売施設”夢楽市場”



石礫混じりで耕作土の薄いほ場



凡 例	
市町村界	*****
地区界	—————
農業振興地域界	—————
市街化区域界	—————
旧町界	*****

老朽化した漏水の発生している水路



改修された水路（イメージ）

客土
揚水機場①
かどの郷
用水路③

ひがみ四季彩館



直売施設”ひがみ四季彩館”



『赤飯の素』
大納言小豆加工品



直売施設”丹波の里”



稲で丹波竜を描いた”田んぼ絵”



丹波のうら



凡 例	
市町村界	*****
地区界	—————
農業振興地域界	—————
市街化区域界	—————
旧町界	*****

中山間地域総合整備事業「丹波西地区」事業計画

工種	記号	事業量	施工箇所
区画整理	○	7.0ha	おびえ 青垣町大榎
用水路①	—	200m	氷上町三原
用水路②	—	570m	山南町奥
用水路③	—	250m	柏原町下小倉
用水路④	—	2,840m	山南町和田
用水路⑤	—	30m	山南町谷川
用水路(ケ-1)	⊙	2門	山南町太田
揚水機場①	⊙	2箇所	氷上町上新庄
揚水機場②	⊙	1箇所	山南町応地
客土	■	2.6ha	氷上町三方
集落内排水路	—	270m	山南町野坂

工程表

	H23	H24	H25	H26	H27
実施設計	←→				
生産基盤	←				→
環境施設 (生産基盤的)		←→			

B/C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
総合整備	作物生産便益 作付の増加による収量増、湿田の改良によって収穫量が増えることによる収益、また整備により水路等の機能が保全されることでの現況単収が維持される便益の合計	年効果額(円/年) = 作付面積(ha) × 現況単収(kg/10a) × 増加率(%) × 作物単価(円/kg) × 純益率(%)
	営農経費節減便益 区画整理により大型機械での作業が可能になり、作業時間が減少することによる経費節減額	年効果額(円/年) = 作付面積(ha) × 単位面積当り営農経費節減額(円/10a)
	維持管理費節減便益 既設の施設にかかる維持管理費と計画施設にかかる維持管理費との比較による経費節減額の合計	年効果額(円/年) = 現況施設維持管理費(円/年) - 計画施設維持管理費(円/年)
	生活環境改善便益 農村生活環境の改善により日常生活の安全性や快適性が維持・向上する効果額の合計	年効果額(円/年) アンケートによる住民支払意志額単価 × 受益戸数

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
総合整備	中山間地域総合整備事業 一般型	作物生産便益	1090	用水路が未整備の場合に想定される単収減の抑制 区画整理による水稻の単収増	1,267	528		1.08
		営農経費節減便益	163	水稻 35.6hr→18.4hr/10a				
		維持管理費節減便益	84	水路ライニング等による維持管理の減				
		生活環境改善便益	31	集落内排水路についての支払意志額				
		総便益	1,368					

費用便益比算定：「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について」(農林水産省農村振興局長通達)